

## 四谷の

# 千枚田だより



第 192 号

おり、このま  
までは限界  
を感じ、行政  
の受け皿と  
して保存会  
を設立。軽ト

## 棚田地域振興法成立 これまでの経緯

平成三十年六月下旬、自民党政務調査会から「棚田支援に関するプロジェクト」を立ち上げる意向である。ついで、中島先生（棚田研究の第一人者）から紹介があった小山にご意見を伺いたいことと「棚田支援に関するアンケート」の依頼があった。内容は棚田を将来にわたって維持・保全の法制度の検討材料としての四谷の千枚田における棚田保全取り組みなどの質問票で八つの大項目と多く、回答期限も七月十七日と切羽詰まった依頼であった。

## 回答抜粋（原文）

### 6 棚田保全。振興の取り組みの成功要因

・うまくいっている要因

平成三年、地域の宝として保存活動を開始。全国でも棚田保存の先駆けと自負していることや、真正面から観る姿は日本一と、景観立地条件にも優れており、都市近郊から訪れる人々の癒しの場としても定評がある。

・何が原動力

急傾斜地の農作業に難を抱いて

ラの通れる作業道を要望、行政も好意的な努力を頂き「ふるさと水と土ふれあい事業」で農作業効率アップと国民の癒しの場としての整備をして頂いたことが「棚田継承」、「国民のオアシス（日本の原風景）」となり、棚田の百姓は耕運機の出し入れも難儀であった田んぼも軽トラがスイスイ、日頃、黙々と働く都市住民に「くたびれたら おいでん癒されるに」を看板に掲げ、癒しの場、憩いの場とし、活気みなぎる場所を提供している。

・恵まれた自然環境を活かし、田んぼ全部をビオトープと位置づけ、生物多様性を学ぶ、自然観察会などを頻繁に開催している。例えば、農薬の乱用で減少した水生動物等の再生（モリアオガエル・ヤマアカガエルなど）が波及して「生きものと共生した体に優しいコメづくり」の実践などに心掛け、その評価が大きい。地元小学校や高校農業クラブ、また、「食の原点を学ぶ」と題して調理製菓専門学校などの稲作体験、育農の場としての受け入れ、地元企業の新人、幹部研修なども実施、大き

な繋がりを展開している。  
・イベントの開催

田植えの終わった六月の第一土曜日、「お田植え感謝の夕べ」〜みんなで灯そう千枚田〜、十二月第二日曜日、「収穫感謝祭」〜餅つき大会〜、恒例となった山岳マラソン「パワートレイル・エイドステーション」の選手接待、応援などの協力。

・地域の核であった連谷小学校が廃校になり、行政区「四谷」集落は五十戸にも満たないし、連谷元校区を併せても百戸程度の小集落で、抛りどころもない状態で「四谷の千枚田」が小学校の後を継ぎ、中核の立場として、地域活性に、各種行事に地域住民を巻き込み、「むらづくり」に邁進しているし、また、住民も地域のシンボル、誇りとしている。

・毎月、地域の出来事や、身近な情報を「四谷の千枚田だより」（現在「6号」）を発信。大きな成果を果たしている。例 英国 BBC、日本の里山・小さな旅 英国 BBC、民放を含め五十本以上

映画「あん」、コドロマ「リーダーズロケ」、COOLIO 愛知招致活動貢献、愛知教育振興会編「道徳読本」六年生教科書等々。

### 7 棚田を維持・保全していく上で の課題

都市住民や外国人観光客は訪れ



るが、地域にお金が落ちないことが課題。知名度は年々上がるものの、地元耕作者あつての発展である。耕作者に還元されるような仕組みづくりが必要。

### 8 その他の意見。要望等

今、四谷の千枚田は愛知県の2大自然環境観光地に位置付けられ、大勢の観光客が訪れる。棚田を守る百姓は農業の生産の場として、日々保全管理に費やしているが、メリットは全くない。

全国棚田（千枚田）サミットで非効率な棚田の保全管理の継続、継承

を鑑み、恒久的な施策として「中山間地等直接支払制度」の導入が図られた。四谷の千枚田も、この制度に乗っかり三期（一期～五年）まで交付金を戴き、耕作意欲も向上していたが、制度の縛りがあまりにも「きつく」（強力）四期は辞退してしまった。「日本の原風景」とか「水源の涵養」、「国民の憩い・癒しの場」等々、謳い文句は並べられているが、棚田を耕し、保全する耕作者には現在、何も補填はない。

保存会設立以来、新城市から、わずかながらの維持管理費は戴いているが、その、ほとんどが都市住民への接待、癒しの場（トイレメンテナンス、ベンチ、啓蒙看板など）などの維持管理に消えてしまっているのが実状である。

特に、「四谷の千枚田」は環境を重視し、ゴミの無い棚田日本一を自負。自動販売機も設置していないし、俗化を極力避け、訪れる方々に本物の自然豊かな環境（千枚田）を満喫していただければと願っているし、実践もしている。

訪れる人々は、この景観、環境に大きな満足感を得ているようで、「どうだん、癒されたかん、癒されたなら、新城市や奥三河で「まんま」（昼飯）でも食っていつてくれりゃあ、わしらは満足だえん・・・」と屈託がない。

### 意見・要望

上記に本音を述べたが、できれば「中山間地等直接支払制度」の規制緩和をいただければ、集落協定にも望みを託したい。

また、癒しを求め、年間二万五千人も訪れ、この地方の活性に寄与していることは紛れもない事実であり、間接的に棚田環境税などの支援制度の制定などを提案する。

### 交付金（助成金）

十ヶあたり二万円に設定しても、全面積が三、六畝であり、総額にしても七十二万円で、国の宝、市・県の顔が保たれるなら、決して高い助成金ではないと思う。

支払いも、耕作者に限定すれば、後継者不足や荒廃農地の解消にも繋がる。等々、回答した。

その後、第二十四回棚田サミット（長野県小谷村）において農水省課長は棚田法案（仮称）の議員立法が秋を視野に本格的な法案作成に入っている。と嬉しい挨拶があった。

そして令和元年六月二十日、自民党政務調査会PTから「棚田地域振興法」が六月十二日に成立、同法案作成の協力のお礼と同法要綱及び関連資料が届き、みると、棚田を「貴重な国民的財産」、棚田地域の「振興を国の責務」と定める。とあり、改めて同法成立に四谷の千枚田も寄与できたことに喜びを覚えた。

### 念仏踊り

八月十三日、身平橋海源寺で西組共進連の若い衆と中老衆による本尊様と先祖供養の念仏、跳ね込みが行われた。

八月十四日、連合の方真連の念仏踊りが初盆の小野田 秀さん宅と原田恵稔さん宅で厳粛に行われた。



### 物故者追悼会

連谷明朗クラブは昭和四十一年から続く物故者追悼供養供誂が八月十七日、連谷会館で海老東泉寺前川副住職をお招きして行われた。

物故者ご芳名  
原田きよみ様 小野田米作様 松下

好美様 夏目勝彦様 稲熊ユキ様



### 案山子

JA愛知東子ども農学校（六十名）は千枚田の学習田に案山子を立て、訪れる人々に愛嬌を振りまいている。

### 今後の予定

・九月五日（木）、  
豊橋調理製菓専門学校での稲刈り



行 令和元年九月一日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二